平成16年12月
第12号
九州大学病院
広報サービス委員会発行

# 九大病院だより

九大病院だよりは患者さん向けの広報誌です。ご自由にお持ち帰り下さい。

## 医療の質向上へ 新制度導入

良質で効率的な医療を提供するため、本院は、医学界で展開されている「クリティカルパス」という新しい制度を導入することになりました。これは医療の内容を評価・改善して質の高い医療を患者さんに提供するもので、すでにカルテ委員会（委員長・前原喜彦第二外科教授）が作業グループを編成して、糖尿病、胆石症、脳卒中のクリティカルパスを作成、さらに乳がん、前立腺、白内障、狭心症、卵巣がんを検討しており、ここ二年、三年のうちには100程度のクリティカルパスを軌道に乗せる計画です。

このクリティカルパスは、入院から手術、退院まであらかじめ患者さんに「入院診療計画予定表」を渡しますが、この予定表には治療、検査、薬、食事、入浴、生活指導などこと細かに一覧表になっています。これに従って病院全体が統一した治療計画を展開しようというもので、前原委員長は「医療の安全性、患者さんに分かりやすい医療のサービスができ、地域医療の連携がスムーズになり、さらに無駄な医療や過剰診療を防ぐなどの効率化が期待できる」と言っています。

101年の歴史を持つ本院では、これまで、それぞれの診療科が疾病に歴史と伝統でのぞみ、手術のメスさばき一つ各科で違いがありましたが、この新制度の導入でカルテも一本化でき、患者さん中心の医療が可能になると期待されています。今年８月には院内の全職種の人達が集まり、新制度導入の徹底を図るために国立大学病院では全国初めてのクリティカルパス大会を開きましたが、電子カルテ導入にも道が開けることになります。

### クリティカルパスとは

医療の質を確保しながら、効率的に提供するため多業種の医療従事者が連携して提供する医療を計画予定表にまとめたもの。予定表には、疾病を持つ患者さんに入院指導、オリエンテーション、検査、ケア、退院指導等が組み込まれている。もともと生産工程管理で使われていた言葉で臨界進路と訳されている。アメリカのメディカルセンターで導入され、今や日本国内の国立病院や大学病院などで採用されている。

## コラム

### この病気、遺伝するの?

小児科教授
臨床遺伝医療部部長　原（はら）　寿郎（としろう）
MESSAGE from Toshirou Hara

近年の目覚ましい遺伝子解析技術の進歩により、ヒトの遺伝情報の詳細が明らかにされています。その情報は世界中に公開され、多くの疾患の病因や病態の解明に役立っており、さらに遺伝子検査が実際の医療に応用されている遺伝性疾患も多数あります。

このように遺伝子に関する情報を臨床の場で利用していくためには、臨床遺伝を専門とするカウンセラーによる患者さんとその家族の方々への遺伝カウンセリングが必須であり、また、遺伝情報の漏洩、遺伝的差別、検査の強要などが起こらないように、倫理的問題にも対応できる体制が必要です。

本年4月に九州大学病院に臨床遺伝医療部が開設され、当部門に所属する臨床遺伝専門医・指導医がさまざまなニーズに対応して遺伝カウンセリングを行っております。遺伝性疾患の患者さんやその親族の方々が病気の遺伝に関する説明を希望される場合や、遺伝子診断や保因者診断・出生前診断についてお知りになりたい場合、親戚同士の結婚に関する遺伝病のリスクなどについて不安や悩みを抱えている方々などを対象に、遺伝に関する正確な知識と、遺伝子検査や染色体検査に関する最新の情報を提供し、必要に応じて遺伝子検査や染色体検査などのお手伝いをいたしております。

遺伝カウンセリング外来（有料）は予約制となっておりますので、まずは臨床遺伝医療部までご連絡ください。

（臨床遺伝医療部　TEL 092-642-5421）

## 診療科の紹介

# 今回は、産科婦人科をご紹介します。

産科婦人科は明治38年に婦人科学産科学講座として開講された本学でも古い講座の一つで、悪性腫瘍（がん）、生殖内分泌（不妊症・ホルモン）、周産期（妊娠・分娩）の産婦人科の３つの専門領域にわたって診療しています。

新患外来は火・木（午前８時30分から11時までの受付）となっています。再来については疾患によって受診日や予約の要否が異なりますので、外来にて次回再診日をご確認いただきますようお願いいたします。なお、新患は紹介状をお持ちでない患者さんについても受付ています。入院診療については、悪性腫瘍ならびに生殖内分泌疾患は産科婦人科で、周産期疾患は周産母子センター母性胎児部門において、それぞれ行っています。

当科は九州一円における高次診療ならびに教育研修施設であり、一般的な産婦人科診療に加えて先端的な診療を行っています。たとえば、各種悪性腫瘍に対する手術療法、多剤併用化学療法や化学療法併用放射線療法、中高年女性退行期疾患に対する予防・治療や内視鏡下手術、合併症妊娠の集学的治療、胎児の出生前検査・治療、母子メンタルヘルスクリニック等がこれに当たります。診療内容は当科ホームページ http://www.med.kyushu-u.ac.jp/gynob/にも掲載されていますのでご参照ください。

今後とも地域の病院と連携しながら、ハイリスク疾患や高度医療に特化した診療を目指していきます。

（産科婦人科　科長　中野　仁雄　　TEL：092-642-5409）

## インフルエンザ

インフルエンザはインフルエンザ・ウイルス（A型とB型がある）に感染し、咽頭痛、鼻汁、咳などの上気道症状がみられるだけでなく、38度以上の発熱、全身倦怠感、筋肉・関節痛などの全身症状が著明にみられます。数年前までは、患者さんの症状で診断し、治療も解熱剤しかなかったのですが、現在では咽頭拭い液や鼻汁を用いて、20分以内に診断が可能であり、副作用もなく充分な治療効果がある抗インフルエンザ薬が投与されています（発病後48時間以内で有効）。また、インフルエンザは院内感染としても重要ですので、九州大学病院の職員はその予防のためワクチンを接種し、入院患者さんへの感染源にならないよう努めています。自分だけでなく、他人を感染から守るために、患者さんの皆様にもワクチンの接種をお勧めします。さて、鳥インフルエンザが騒がれていますが、鳥からヒトへの直接感染は少ないのですが、最近中国でブタからこのウイルスが分離されています。ブタは鳥インフルエンザ・ウイルスの遺伝子をヒトへ感染しやすいように換えることができるため、注目されています。今のところ、このウイルスの予防に有効なワクチンはありませんが、治療は現在の抗インフルエンザ薬で可能です。

（総合診療部 部長 林 純 TEL：092-642-5300）

## 市民公開講座のお知らせ（九大病院臨床研究センター）

テーマ

# 新しい医療への足がかり

## ～治験ってなあに？～

治験とは、新しいお薬を世の中に出すための仕組みです。医療の発展に治験は欠かすことができません。

九州大学病院臨床研究センターでは、治験に関する正しい情報を知っていただき、また、治験の意義を理解していただくために、市民公開講座を開催いたします。

公開講座では、治験の実際をわかりやすく説明するとともに、治験の成果として登場した新しい医療をご紹介する講演をいたします。また、お薬や健康についての相談コーナーや、みなさんの健康度を実際にチェックしていただくコーナーも同時に設けます。

入場は無料、予約も不要です。ご自由にご参加ください。

日時　平成17年1月8日（土）午後2時より（開場午後1時30分）

場所　アクロス福岡 4階 国際会議場　福岡市中央区天神1丁目1－1

主催：九州大学病院臨床研究センター

（担当：戦略企画課研究支援掛　山本　電話092-642-5047）

# 外来案内ボランティア活動

ボランティア
岩永フサ子

総合案内ボランティア活動に参加して、早や８年目を迎えました。古希を過ぎましたが元気印を目標に頑張っております。

私共の大事な役割は、早朝より遠路ご来院の患者さんのために、どんなに些細なことでも臨機応変に対処すること、誠意をもって説明、介助、ご案内ができるように心がけることだと思っています。

自動再来受付機が設置されてから、再来患者さんの介助が多くなりました。時に、入院患者さんのご案内をすることもあります。特に車椅子の方、目の不自由な方への配慮に努めております。「有難うございました。今日は助かりました。」とご挨拶頂いた時、とても励まされ、さわやかな気持ちになります。

今後、より多くの皆様のご協力で、ボランティア活動が充実、向上することを願っています。

ボランティア
黒瀬　晶子

外来の玄関ロビーで、受付の案内などのボランティア活動をさせていただいています。多くの患者さんにお会いすることができまして１年余、たくさんの「ありがとう。」を頂きました。こちらこそ、ありがとうございます。

実は、私も10年前に多くの不安を抱え、この玄関を入りました。受診・検査・入院・手術・再入院‥‥、いろいろなことに出合いましたが、おかげさまで、たくさんの人、環境の支援で何とか通院しながらも元気になりました。「ご一緒に何かお手伝いできることがありませんか？」毎日一人ずつ交代でボランティア活動を行っています。（８：30～11：00）緑色のエプロンをつけています。

どうぞ、お声かけをお待ちしています。

## 別府先進医療センター
## 免疫・血液・代謝内科

リウマチ膠原病、血液疾患、糖尿病・代謝疾患の専門診療内科です。当科は温泉治療学研究所の内科部門として昭和６年に設立されて以来、70余年の歴史を持っています。発足当時から伝統的に温泉を利用して多くのリウマチ膠原病疾患患者さんの診療に携わってきました。現在、関節リウマチは様々な新しい治療薬が開発され、寛解を目指した治療が可能となりました。温泉療法はリハビリテーションの一部としての補助的な位置付けとなりましたが、温泉プール浴、鉱泥浴などは今でも大変人気の高い施設です。現在はリウマチ膠原病疾患に加え、血液疾患、糖尿病・代謝性疾患の専門診療を行っています。血液の悪性疾患、あるいは難治性のリウマチ膠原病疾患に対して造血幹細胞移植も行っています。病診連携にも力を入れ、特に骨粗鬆症外来では地域の医療機関と協力して診療を行っています。患者さん教育にも積極的に取り組み、月１回のリウマチ教室、糖尿病教室や市民のための医学イブニングセミナーは大変好評です。糖尿病患者の会「さくら会」では会員交流会、ウオークラリーなどを通じて病気の啓蒙に力をいれてます。当科の診療に関してはホームページをご覧ください。http://www.mib-beppu.kyushu-u.ac.jp/MIB_hosp/index.htm

（免疫・血液・代謝内科　科長　西村　純二　　TEL 0977-27-1640）

※奨学寄付金とは、教育・学術研究の奨励及び病院運営の助成等のため、個人・法人等から寄付金として受け入れるものです。詳しくは、左記掛へお問い合わせ願います。

# 歯科医療センターの庭園

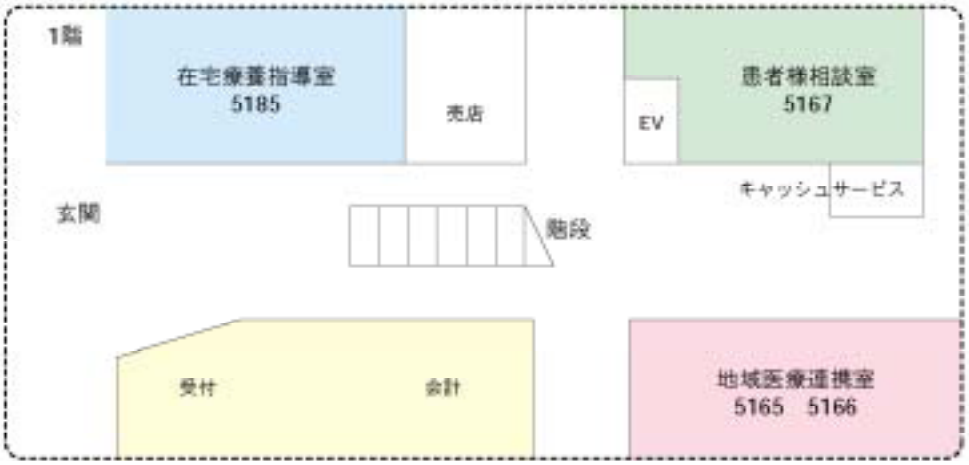
正門を入ってすぐの右手に、木々に囲まれたような歯科医療センターの玄関が見えます。玄関前の庭園はそれほど大きくはありませんが、黒々とした幹の楠の大木を中心に、春は桜やレンギョウ、初夏は紫陽花、秋は銀杏や紅葉と、バラエティ豊かな植物に囲まれています。玄関前には小さな池もあり、入院されている方やご家族の散歩に役立っています。この庭は主に事務関係の職員が仕事の合間に草取りや剪定を行っています。本職ではないので十分な管理とはいえませんが、素人っぽさがかえって安らげる雰囲気になっているかもしれません。福岡中心部から受診を続けていらっしゃる方は、正門から歯学部の玄関を入るまでの歩道を歩くとき季節感をしみじみと感じるとおっしゃってくださいます。皆様もお時間のあるとき、初冬のこの庭に足を運ばれませんか？朝は数種の小鳥のさえずりを聞くことも出来ます。

昭和42年に歯学部附属病院として設立され、35年目を迎えた昨年は医学部附属病院、別府生医研附属病院と統合され、歯科医療センターと建物の呼び名が変わりました。平成18年には現在建築を続けている新病院に歯科が引っ越しする予定です。患者の皆様にとってさらに便利な九大病院になります。現役で活躍する１年余りの期間、さらに親しまれ信頼される建物である日々を過ごしてもらおうと、職員一同奮闘しています。

●休み時間を庭園で過ごす学生たち

## 移転及び設置のお知らせ

- ●地域医療連携室は外来棟２階より外来棟１階（旧医療安全管理室）へ移転しました。
- ●公費申請窓口は外来棟２階より外来棟１階（旧感染制御部）へ移転しました。
- ●患者様相談室は旧感染制御部へ移転しました。
- ●在宅療養指導室を外来棟１階（旧外来会議室）に設置しました。



**病院にお越しの際は保険証をお忘れなく！**

※保険証の呈示がない場合には、保険の取扱いができません。



R100 PRINTED WITH SOY INK